

小学校国語科における 「話すこと・聞くこと」の力を高める指導の工夫 —— 教師用単元シートと児童用学習シートにつながりをもたせて ——

長期研修員 山本 綾乃

《研究の概要》

本研究は、小学校国語科における「話すこと・聞くこと」の力を高めるために、教師用単元シートと児童用学習シートをつなげる指導の工夫を行い、指導と評価の一体化を目指したものである。手立ての一つ目は、学習活動、おおむね満足できる児童の状況、努力を要する児童への手立てを明確にした教師用単元シートの作成と授業中や授業後の見取りや評価への活用である。二つ目は、教師用単元シートを基にした、児童が単位時間のめあてから振り返りまでを見通すことのできる児童用学習シートの作成と活用である。三つ目は二つのシートをつなげる指導の工夫である。これらの手立てを取り入れていくことで、児童の「話すこと・聞くこと」の力を高められることを実践を通して明らかにした。

キーワード 【国語—小 話すこと・聞くこと 指導と評価の一体化 授業改善】

群馬県総合教育センター

分類記号：G01-02 令和3年度 276集

I 主題設定の理由

平成28年12月に、中央教育審議会において、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」が示された。そこでは、新しい学習指導要領等の公示に向けて改善すべき事項をまとめ、枠組みを考えていくことが必要となる点の一つとして「『何が身に付いたか』（学習評価の充実）」を挙げている。それを受けて「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年1月）では、学習評価の改善の基本的な方向性として、「児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと」「教師の指導改善につながるものにしていくこと」が示された。それらの答申や報告などを踏まえ国立教育政策研究所で作成された「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（令和2年3月）に、「学習指導要領改訂の趣旨を実現するためには、学習評価の在り方が極めて重要であり、すなわち、学習評価を真に意味あるものとし、指導と評価の一体化を実現することがますます求められている」とある。単に評価をして終わりにすることなく毎時間の学習評価を充実させ授業改善につなげる必要がある。

小学校学習指導要領（平成29年3月公示）では、全ての教科等の目標及び内容を、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理して、各教科等でのような資質・能力の育成を目指すのが明確化された。そして、教育目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価については、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理された。社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、三つの力をバランスよく育むことが求められている。

令和3年度学校教育の指針（群馬県教育委員会）には、国語の授業改善のポイントとして、「ねらいを明確にした交流活動を設定」することが掲げられている。学びを深める交流活動を行うためには、相手に伝わるように話したり、話し手の伝えたいことを中心に捉えて聞いたりする力が不可欠であり「話すこと・聞くこと」の指導の充実が重要であると考えられる。

研究協力校では、「話すこと・聞くこと」の力の個人差が大きく、自分の考えを相手に伝わるよう話したり、相手の意図していることや話の要点を考えながら聞いたりすることが難しい児童もいる。教師側の課題としては、「話すこと・聞くこと」の学習場面で、単元を通して必要な評価を行い指導改善につなげることが難しい現状がある。

こうした課題の解決に向け、児童の「話すこと・聞くこと」の力を高めるために、教師が毎時間の評価を指導改善に生かしたり、授業中に見取った児童の様子やワークシートへの記入状況を基に助言などを行い学習改善につなげたりする工夫が必要であると考えられる。そこで、毎時間の評価を見取ったり手立てを明確にしたりする教師用単元シートと児童が自己の学習を振り返ることのできる児童用学習シートにつながりをもたせることで、評価を生かした指導の工夫ができるのではないかと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

小学校国語科の「話すこと・聞くこと」領域の含まれる単元での指導において、児童の「話すこと・聞くこと」の力を高めるために、教師が学習活動、おおむね満足できる児童の状況、努力を要する児童への手立てを明確にすることができる教師用単元シートと児童が単位時間のめあてから振り返りまでを見通すことができる児童用学習シートを作成し、二つのシートをつなげる指導の工夫をすることの有効性を明らかにする。

III 研究仮説（見通し）

1 教師用単元シートの作成と活用

教師用単元シートとして、学習活動、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況

(C) の児童に対する手立てを明確にしたものを作成し活用すれば、教師は、単位時間ごとに児童の学習状況を把握し、一人一人への支援や手立てに生かすことができるであろう。

2 児童用学習シートの作成と活用

児童用学習シートとして、学習活動と「おおむね満足できる」状況（B）を基に、めあて、学習内容、まとめ、振り返りを記入できるものを、単位時間ごとに作成し活用すれば、児童は自己の学びや考えを整理したり、学習の達成感を味わったり、学んだ内容を再確認したりすることができるであろう。

3 教師用単元シートと児童用学習シートをつなげる指導の工夫

教師用単元シートを基に児童用学習シートを作成したり、児童用学習シートから見取ったことを次時以降の学習活動の再考に生かしたりするなど、二つのシートをつなげる指導の工夫をすることが、「指導と評価の一体化」による授業改善につながり、「話すこと・聞くこと」の力を高めることができるであろう。

IV 研究の内容

1 手立ての説明

(1) 教師用単元シートの作成と活用

各単位時間の学習活動と、単位時間ごとに「おおむね満足できる」状況（B）と評価する児童の姿、「努力を要する」状況（C）の児童に対する手立てを示した教師用単元シート（図1）を作成し、授業中や授業後に活用する。「おおむね満足できる」状況（B）の具体的な児童の姿をイメージして示しておくことで、児童の学習状況を適切に見取り単位時間ごとの評価が充実すると考える。また、手立てを明確にしておくことで、「努力を要する」状況（C）と判断した児童に対して、その授業時間内及び授業後に適切な支援を行うことができると思う。「おおむね満足できる」状況（B）の欄には質的な高まりや深まりをもっている児童の名前や様子を、「努力を要する」状況（C）への手立ての欄には、支援を行った児童の名前と様子や具体的な手立てなどを記録する。

(2) 児童用学習シートの作成と活用

各単位時間に、1枚のシートで、めあて、学習内容、まとめ、振り返りの枠に児童が記入できるようにする。児童用学習シート（図2）は、(1)のシートにある学習活動と「おおむね満足できる」状況（B）を基にして作成する。授業中、児童がめあてに沿った学習を進め、本時の振り返りまで確実に取り組めるよう活用する。授業後は、シートの記述を評価に生かしたり、必要に応じて助言を

単元シート「あなたなら、どう言う」		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(1)ア) ②考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	①「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)イ) ②「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり聞き取りしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ)	①学習課題に沿って、様々な立場でやり取りを行い、互いの意見の共通点や相違点に着目して積極的に考えをまとめている。
学習活動	「おおむね満足できる」状況（B）	「努力を要する」状況（C）への手立て
1 単元の課題を確認し、師の立場に立って考える活動を通して、学習の見直しをもつ。	教科書の挿絵をもとに、どんな場面の対話について考えるのかを話し合い、対話の仕方を考えようとしている。(主D)	これまでの学習を振り返らせたり、それぞれの立場を考えたりするよう声をかける。
2 グループで、それぞれの立場に立って思いを伝えたり、よりよい言い方について話し合ったりする。	それぞれの立場や思いに合わせた言葉を使ってやり取りをしている。(知D) それぞれの立場に立って思いを伝えたり、互いの発言の中心を捉え聞いたりしながら、よりよい言い方について考えている。(思D)	師や他の立場や思いを伝え、それをどう伝えるか一緒に考える。 けんかにならない言い方や相手が嫌な気持ちにならない言い方を考えるよう助言する。

図1 教師用単元シート

先生より		「あなたの言うこと、どう言う」① 名前	めあて	
小かえり				

図2 児童用学習シート

記入して支援したりすることができる考える。

(3) 教師用単元シートと児童用学習シートをつなげる指導の工夫

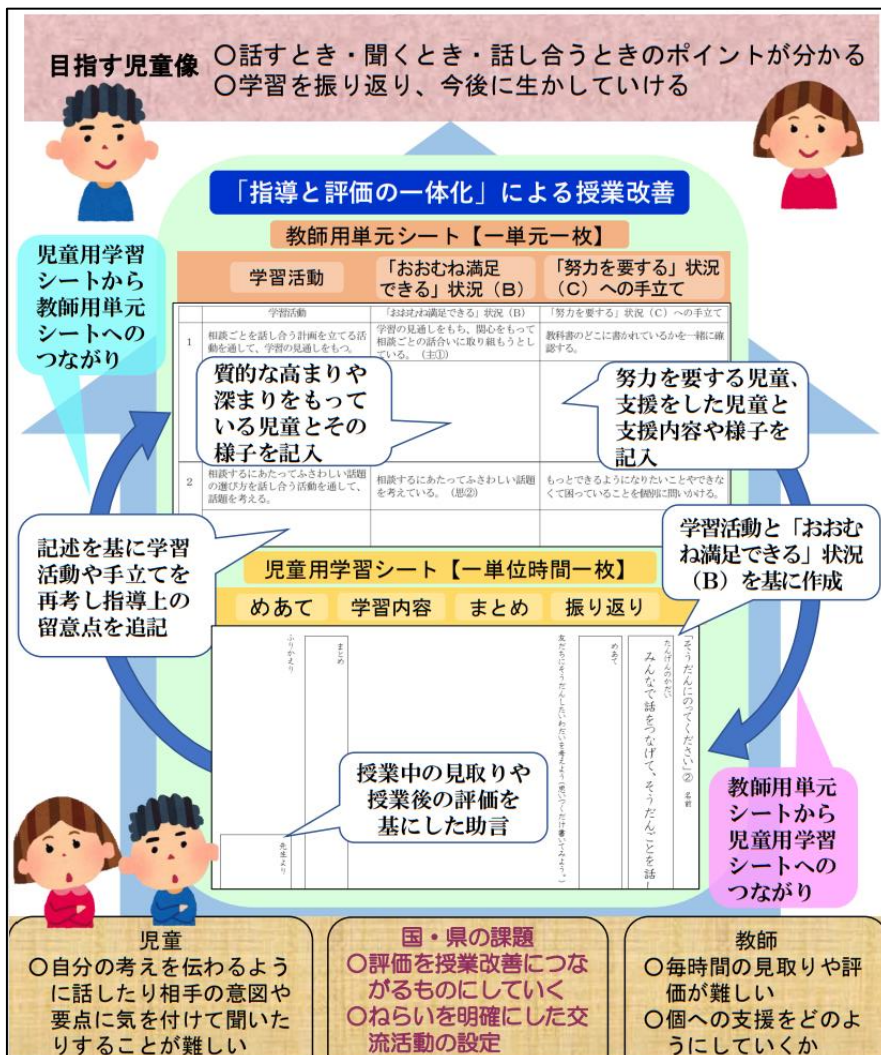
① 教師用単元シートから児童用学習シートへのつながり

- ・教師用単元シートで明確にしてある学習活動や「おおむね満足できる」状況（B）と見取る具体的な児童の姿を基にして、児童用学習シートを作成する。児童が学習内容を意識し記述しやすい形で、「おおむね満足できる」状況（B）に関連した記述ができるようにする。
- ・児童用学習シートは授業後に集約し、教師が授業中に教師用単元シートに記録した様子や児童の記述を基に助言を記入する。次時の授業開始に合わせて児童に返却し、前時の振り返りや教師の助言を確認できるようにする。

② 児童用学習シートから教師用単元シートへのつながり

- ・授業後に集約した児童用学習シートの記述から児童の学習状況を見取り、教師用単元シートに質的な高まりや深まりをもっている児童の名前や様子、努力を要する児童の名前や様子を記録する。教師用単元シートに、記録することによって、授業中の見取りと授業後に集約した児童用学習シートの記述からの見取りを一緒に確認することができるようにする。
- ・授業中に教師用単元シートに記録した児童の学習状況や児童用学習シートの記述から見取った児童の実態を踏まえて、学習活動や手立てを必要に応じて再考したり、特に留意すべき点を考えたりして、教師用単元シートの「学習活動」の欄に指導上の留意点などを追記する。前時の児童の実態から不十分だと捉えた点について、もう一度確認してから本時の学習に入ったり、新たな支援の方法を考えたりするなどが考えられる。

2 研究構想図



V 実践の計画と方法

1 授業実践の概要

(1) 低学年の実践

対象	実践① 研究協力校 小学校第2学年 20名	実践② 研究協力校 小学校第2学年 20名
実践期間	令和3年7月5日～7月14日 8時間	令和3年10月26日～11月8日 8時間
単元名	しつもんしあって、くわしくかんがえよう	みんなで話をつなげよう

(2) 中学年の実践（指導案を基に担任が実践）

対象	実践① 研究協力校 小学校第4学年 21名	実践② 研究協力校 小学校第4学年 21名
実践期間	令和3年9月8日～9月10日 3時間	令和3年11月10日～11月19日 8時間
単元名	対話の練習をしよう	役わりをいしきしながら話し合おう

(3) 高学年の実践（指導案を基に担任が実践）

対象	実践① 研究協力校 小学校第6学年 30名	実践② 研究協力校 小学校第6学年 30名
実践期間	令和3年9月1日～9月3日 3時間	令和3年11月15日～11月19日 5時間
単元名	対話の練習をしよう	目的や条件に応じて、計画的に話し合おう

2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証方法
見通し1	学習活動、おおむね満足できる児童の状況、努力を要する児童に対する手立てを明確にしたシート（教師用単元シート）を作成し活用したことで、教師は、単位時間ごとの児童の学習状況を見取り、一人一人への支援や手立てに生かすことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師用単元シートの記入内容の分析 ・授業実践者への聞き取り
見通し2	めあて、学習内容、まとめ、振り返りを記入できるシート（児童用学習シート）を単位時間ごとに、学習活動とおおむね満足できる児童の状況を基に作成し活用したことで、児童は自己の学びや考えを整理したり、学習の達成感を味わったり、学んだ内容を再確認したりできたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童用学習シートの記入内容の分析 ・学習シートに関する児童用アンケート
見通し3	教師用単元シートを基に児童用学習シートを作成したり、児童用学習シートから見取ったことを次時以降の学習活動の再考に生かしたりするなど、二つのシートをつなげる指導の工夫をしたことで、授業改善につながり、児童の「話すこと・聞くこと」の力を高めることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・両シートの記入内容の関係性の分析 ・授業実践者への聞き取り ・児童用アンケート ・児童用学習シートの記述内容の見取り

3 指導と評価の計画

○低学年「みんなで話をつなげよう」の実践

●指導に生かす評価

○評定に用いる評価

評価規準	知識・技能	① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
	思考・判断・表現	① 「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。（A(1)オ） ② 「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア）
	主体的に学習に取り組む態度	① 積極的に相手の発言を受けて話をつなぎ、学習の見通しをもって話し合おうとしている。

時 程	過 程	○ねらい	評価の観点			評価項目 〈方法〉
			知	思	態	
第 1 時	つ か む	○相談事を話し合う計画を立てる活動を通して、学習の見通しをもつことができるようにする。			●	学習の見通しをもち、関心をもって相談事の話合いに取り組もうとしている。〈観察・シート〉
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 単元の学習課題 みんなで話をつなげて、そうだんごとについて話し合おう。 </div>						
第 2 時	追 究 す	○相談するに当たってふさわしい話題の選び方を話し合う活動を通して、話題を考えることができるようにする。		●		相談するに当たって、ふさわしい話題を考えている。〈観察・シート〉
第 3 時	る	○相談事について話し合う活動を通してふさわしい話題を決めることができるようにする。		○		相談するに当たって、ふさわしい話題を決めている。〈観察・シート〉
第 4 時		○手本の話合いを聞く活動を通して、話合いの仕方を確認できるようにする。	●			話合いの仕方を理解している。〈観察・シート〉
第 5 時		○ロールプレイングを通して、質問・復唱・共感・感想などの話のつなげ方を確認できるようにする。		●		話のつなげ方を考えている。〈観察・シート〉
第 6 時		○相談に関心をもち、グループの友達と話をつなげて、話合いができるようにする。	○	●		順序に気を付けて話し合い、友達の考えとの相違を受け止めている。〈観察・シート〉 話をつなげて話し合っている。〈観察・シート〉
第 7 時		○相談に関心をもち、グループの友達とより上手に話をつなげて、話合いができるようにする。		○	○	話をつなげて話し合っている。〈観察・シート〉 積極的に話をつなぎ話し合おうとしている。〈観察・シート〉
第 8 時	ま と め る	○単元全体を振り返る活動を通して、話をつなぐ話合いの仕方をまとめることができるようにする。		○	○	話をつなぐ話合いの仕方をまとめている。〈シート〉 学んだことをどのように生かしていくか考えている。〈観察・シート〉

VI 研究の結果と考察

1 教師用単元シートの作成と活用について（見直し1）

(1) 低学年の実践②

各単位時間の評価を行い、指導改善につなげられるよう、第1時～第8時まで、手元に教師用単元シートを置いて授業を進めた。「おおむね満足できる」状況（B）の児童の具体的な姿を明記してあるため、授業中は、容易にその規準に達しない児童の状況を見取ることができた。また、「努

力を要する」状況（C）の児童への手立ての明記は、スムーズな支援につながった。授業中、教師用単元シート「おおむね満足できる」状況（B）の欄には、質的な高まりや深まりをもっている児童の名前や様子を、「努力を要する」状況（C）への手立ての欄には支援を行った児童の名前と様子や具体的な手立てなどを記録した（図3）。授業後は集約した児童用学習シートの記述の評価を行い、教師用単元シートに記録した。その際も、質的な高まりや深まりをもっている児童の名前と、「努力を要する」状況（C）の児童の名前を記入した。

(2) 中学年の実践②

〔4年担任への聞き取りより〕

単位時間ごとに細かく、自分が気を付けるところ、児童の見えるところとなっていて、分かりやすかったと思う（図4）。最初のうちは、学習活動の下の欄をどうしたらよいか分からなくて、話を聞いているうちに、次にやらせたいことや自分が気を付けようと思っていることを書けばよいのだということが分かって、書けるようになった。

児童の様子を授業をしながら時間内にさっと書くのは難しかったが後で児童用学習シートが手元に来るので、それを見ながら思い出して書くこともできた。後で見たときにこうなっている（図4）と分かりやすいと思う。A4サイズだと、手元に保管しておくにはちょうどよいサイズであるが、書き込むにはもっと大きくスペースに余裕のある方が使いやすいと思った。例えばB4サイズで使い、保管するときには縮小するという方法も考えられる。

(3) 高学年の実践②

〔6年担任への聞き取りより〕

授業の学習活動などが書いてあるので、今日何をするのかが一目で分かり、単元の流れも分かるので、見通しがもてる。机間支援のときに教師用単元シートを持っていると、この児童にこういうことを言ったなとさっとメモできるのがよかったと思う。メモを取るのをうっかり忘れてしまうこともあったが、このような視点をもって机間支援をしなければいけないと改めて思った。手立ては、どのようなアドバイスをしたらよいかの参考になった（次ページ図5）。

	学習活動	「おおむね満足できる」状況（B）	「努力を要する」状況（C）への手立て
1	相談ごとを話し合う計画を立てる活動を通して、学習の見直しをもつ。	学習の見直しをもち、関心をもって相談ごとの話し合いに取り組もうとしている。（主①）	教科書のどこに書かれているかを一緒に確認する。
		児童N けいかく。 A そうだんしあう M. まちたんけん。 ②児童3名	児童O ここをよくよんで" G C R ①児童J
2	相談するにあたってふさわしい話題の選び方を話し合う活動を通して、話題を考える。	相談するにあたってふさわしい話題を考えている。（思②）	もっとできるようになりたいことやできなくて困っていることを個別に問いつける。
	計画の確認 教科書 CDをもう一度	児童N 母のたん生月 R 友だちと仲よく、夜早くねる A 足がはやくなる B ベンきょうが早くできる。 F 朝早くおきる ①児童4こ、R5こ	② 問いつかけても思いつかないよう 児童G, C, J, P, I, D H, T, K, D 1つも書いていない。
3	相談ごとについて話し合う活動を通して、ふさわしい話題を決める。	相談するにあたってふさわしい話題を決めている。（思②）	自分で話題を出すことが難しい児童が選べるよう、具体的な話題を教師が複数用意しておく。
	児童が考えた話題や具体例を全体に示す。 もう一度話題を考える時間をとり、付け足しをさせる。 ②児童1名	児童A としのじかんの本のえび方、理由も N 母のたん生月、何とあげたらいいか。 R 夜早くねるには、 ①児童1名	児童I この中からどう？ F えらんていはい C この中でぶぶんもというところある？ ①児童1名

図3 教師用単元シート（2年）

単元シート「クラスみんなで決めるには」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。（2）イ	①「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。（A）(1)オ ②「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A）(1)ア	①進んで、目的や進め方を確認し司会などの役割を果たし、学習の見直しをもって、学級全体で話し合っている。

	学習活動	「おおむね満足できる」状況 (B)	「努力を要する」状況 (C) への手立て
1	「役割を意識しながら話し合う」とはどのようなことを考え、計画を立てる活動を通して、学習の見直しをもつ。 役割に対する意欲を見せている。ふんから学級会の司会や書記をしようとする。『意見が出た』と発言が少なかった。	学習の見直しをもち、関心をもって話し合いに取り組もうとしている。（主①） A 見直しも2F。 B 話し合いのやりかたをよかにしたい。 C D	これまでの学習を想起させたり、教科書を参考にしたりするよう声を掛ける。 E (教科書には、何を書いてあるか?) F H (学級会で、何を話したのか?) G
2	話し合う目的を意識して、学校生活の中から必要感のある議題と役割を決める。 司会や記録、参加者と役割りはわかっていても、目的は同じです。参加者がいいと、話し合いができません。	話し合いの目的を意識して議題を考えている。（思②） D → 「読書の達人」Eふりやうには。 G → 「読書について」 A → 「読書の日」集会もよいよ。 I → クラス全員	学校生活の中から、困っていることや予定されている行事などについて考えるよう声を掛ける。 F (困ったことか何かあったか?) B (話し合いについて話し合い、ここで学習する、...) H (委員会や当番のこと?)
3	手本の話し合いの様子を話し合いで気を付けることとよいことを確かめる活動を通して、よりよい話し合いの進め方を考える。 全員が司会グループの役割ができていないが、いつでもいろいろな役割ができるようにしよう。	自分の役割について、話し合いで気を付けるとよいことを考えている。（思①） H・D・A・I E・F	教科書の例が役割によって色分けされていることを示し、自分の役割に関わることを見つけるよう助言する。 J・B K L M

図4 教師用単元シート（4年）

以上の実践より、教師用単元シートを活用したことで、単位時間ごとに児童の学習状況を把握し、一人一人への適切な支援につなげることができたと考えられる。

2 児童用学習シートの作成と活用について（見通し2）

(1) 低学年の実践②

第1時から第8時まで、単位時間ごとに1枚ずつ児童用学習シートを活用した。「めあて」「まとめ」の枠があり、学習内容の何をどこに書けばよいかははっきり分かるので、児童は記述しやすい様子だった（図6）。最後に「振り返り」を書くスペースを確保したことで、毎時間確実に振り返りをすることができた。第2時以降は授業開始に合わせて前時のシートを返却して、前時の学習内容や自己の学習状況を振り返り、教師からの助言を確認することができた。第8時の「まとめる」過程では、単元のまとめや振り返りに生かせるよう、第7時までの学習シートを見返すよう促した。それらのシートをこれまでの学習内容や自分ができるようになったことなどの確認に使っている様子が見られた。

学習後の児童に児童用学習シートについてのアンケートを実施し、「学習シートは、この単元の学習をするのに役に立ちましたか」という問いに、「とても」「まあまあ」を合わせて、95%の児童が役に立ったと回答した（図7）。具体的には、「書きやすかった」「振り返りがしっかりできた」「自分の考えをまとめられた」「できるようになったことが分かった」「先生よりの言葉で気付くことがあった」という回答が多かった。多くの児童は、本単元の学習を進める上で児童用学習シートが役に立ったと考えていることが分かる。

(2) 中学年の実践②

教師用単元シートを基に作成した児童用学習シートを単位時間ごとに1枚ずつ活用し、第2時以降、授業の最初に、前時の児童用学習シートを返却していた。配付された直後、多くの児童が教師の助言を真剣に読んでいた様子が印象的だった。事前に、8時間分の児童用学習シートを用意しておいたが、第4時の児童用学習シートの指示が分かりづらく児童が適切に取り組むまでに時間がかかってしまったので、類似の活動を予定していた第6時の児童用学習シートを作成し直した。第8時は、第1～7時全ての児童用学習シートを確認しながら、単元のまとめを行っている様子が見られた。

学習後に実施した児童用学習シートについてのアンケートでは、85%の児童が役に立ったと回答した（図8）。役に立ったと考えている児童の自由記述では、以下のような回答があった。

2	進行計画と話し合いのポイントを確認し、グループの中で役割を決め、主張や理由、根拠が明確になるように自分の考えをまとめる。	自分の考えを、主張、理由、根拠に分けて、図などで整理している。(知①)	前時の図などによる語句と語句の表し方を示す。
	D. 条件合わせ 深層思考 確認、よう	D. 条件合わせ	E. 言葉 深層思考 C. ↓
3	目的や条件に応じて計画に沿って話し合い、考えを広げたりまとめたりする。	互いの立場を明確にして進行計画や話し合いのポイントに沿って話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(思①)	話をよく聞き、思ったことや自分の考えを伝えるよう声を掛ける。グループの友達と確認しながら、話し合いのまとめをするよう助言する。
	A. 話し合い 話し合いの 確認、よう	話し合いの 確認、よう 条件、役割、理由、根拠、まとめ、振り返り	話し合いの 確認、よう 条件、役割、理由、根拠、まとめ、振り返り

図5 教師用単元シート（6年）

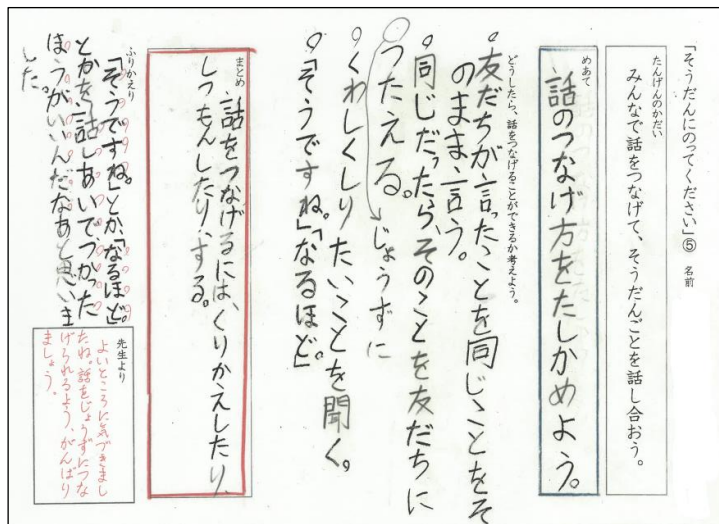


図6 児童用学習シート

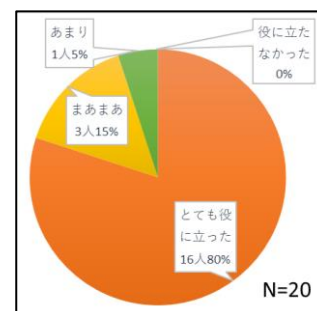


図7 児童用学習シートについて（2年）

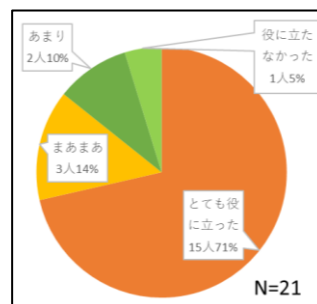


図8 児童用学習シートについて（4年）

た。第3時は早い段階で相談する話題を決め、理由まで記入することができた（前ページ図11）。児童Nは、第2時で相談するのにふさわしい話題を早い段階で考え発言することができた（前ページ図10）ので、「よいわだいを考えられて、はっぴょうもできましたね。みんなのお手本になりました。」と「先生より」に記入した。共に、教師用単元シートに記入した、授業中の見取りからのコメントであり、教師用単元シートから児童用学習シートへのつながりになった。児童Jや児童Pは、第2時の授業後に集約した、児童用学習シートの「振り返り」に、「思い付かなかった」「書けなかった」との記述があった。同じように取組が難しかったと見取れる児童が多かったため、全体に具体例を示し、付け加える時間をとることにし、学習活動の欄に追記した（前ページ図10）。これは、児童用学習シートから教師用単元シートへのつながりになった。また、児童Kは第6時では話し合いへの取組が不十分だったので、次時の頑張りを期待する助言を記入した（図12、図13）。児童Kは、図13のように2回目の話し合いで前時より話をつなげることができ自己評価も上がった。

<p>6 相談に関心をもち、グループの友達と話を つなげて、話し合う。</p> <p>・ヒートカードを用いる。 基本うらにしておいて、必要なら見るように。 相談する順番と配慮 ・タフレットの位置</p>	<p>順序に気を付けて話し合い、友達 の考えとの相違を受け止めている。(知 ①)</p> <p>②児童A Cさんと本の絵巻 について。</p> <p>話をつなげて話し合っている。(思 ①)</p> <p>児童P すらすらさん ・ B すらすら～ いいですね ・ S いいですね、ほっこり～</p>	<p>話し合いの順序を守り、自分の考えと友達の考えを比べながら聞くように声を掛ける。</p> <p>児童A 話にわり込む。 ・ R 余計なこと。2回目OK</p> <p>③児童E, ④, T, F, N, Q, M, P, J, G</p> <p>話のつなげ方の表で確かめながら話す よう促す。話し合いで宿題することを決 め、まずそれができるように声を掛ける。</p> <p>児童D ヒートカード 話し合いX ・ G D, E, K, L ・ J E N ・ R それやって、次々聞こうとする。</p>
<p>7 相談に関心をもち、グループの友達とより上手に話を つなげて、話し合う。</p> <p>・解決するための話し合いでは、なく、話をつなげることが大切で あることを確認</p>	<p>話をつなげて話し合っている。(思 ①)</p> <p>児童B 行ですね～ ・ P ほっこり～ ・ T いいですね、どうして～ ・ N いっぱいおもしろい～</p>	<p>話のつなげ方の表で確かめながら話す よう促す。</p> <p>児童L ヒートカード ・ E ・ D</p>

図12 教師用単元シート

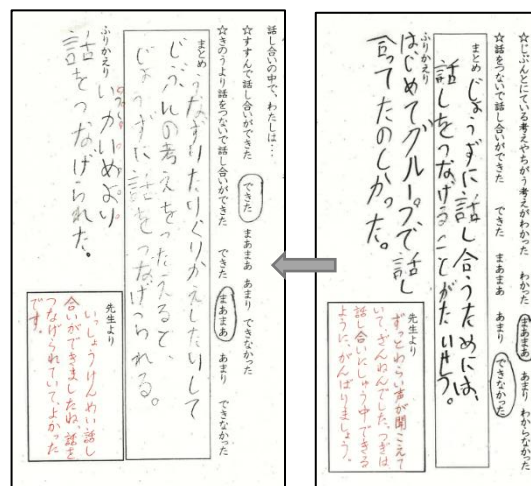


図13 児童K児童用学習シート

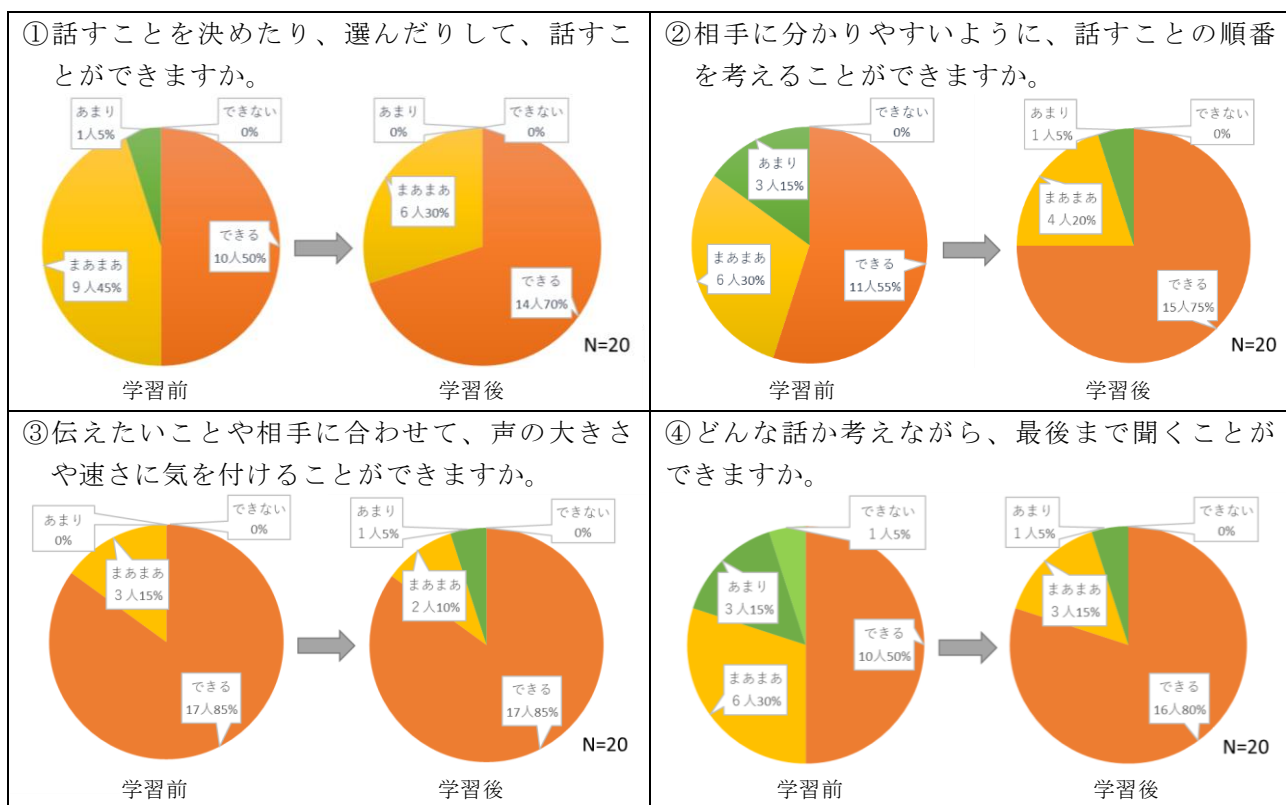


図14 アンケート結果（2年）

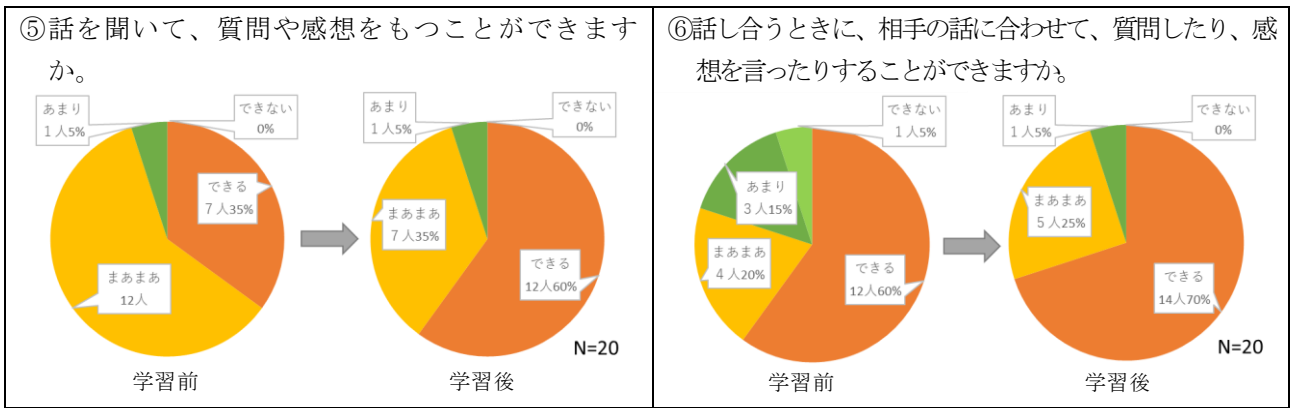


図15 アンケート結果（2年）

アンケートの結果（前ページ図14、図15）から、学習前と比べ学習後は、6項目中5項目で「できる」「まあまあ」の割合が高くなり、「話すこと・聞くこと」について、力が高まったと感じている児童がいることが分かる。また、アンケートでは、話すとき・聞くとき・話し合うときに気を付けていることについて自由記述での回答を促した。学習前は何も書けない児童が多かったが、学習後はほぼ全員が記述することができた。また、記述内容もより適切なものが増えていて（表1）児童の意識が高まったことが分かる。

表1 アンケートの自由記述

	学習前	学習後
話すときに気を付けていること	<ul style="list-style-type: none"> 間違えないようにしたい。 よそ見をしない。・声の大きさ 相手が分かりやすいように。 変な言葉を言わない。等 	<ul style="list-style-type: none"> はっきり最後まで。 考えとその理由を言う。 速さや声の大きさ。 相手の目を見て。等
聞くときに気を付けていること	<ul style="list-style-type: none"> 静かに聞く。・よそ見をしない。 相手の話をきちんと聞く。 途中で口をはさまない。等 	<ul style="list-style-type: none"> うなづく。・話している人を見て。 最後まで黙って。・目を見て。 話題に合った質問をする。等
話し合うときに気を付けていること	<ul style="list-style-type: none"> 間違えないようにする。 駄目って言わないようにする。 相手が聞きやすい言葉で。 相手の話をちゃんと聞く。等 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ずつ順に。・丁寧な言葉で。 友達の言ったことを繰り返す。 「そうですね」と言いながらうなづく。 話がつながるように。等

(2) 中学年の実践②

図16、17のように第6時の授業中の見取りと児童用学習シートの記述を基に、学習活動への追記と児童Fへの助言を記入していた。児童Fは、第6時に自分の考えを多く並べていたが、理由の記述がなかった。そこで、担任はよさを認めつつ、理由を言うことの必要性を助言した。第7時の話し合いでは、自分の考えと共に理由も発言することができていた。

図16 教師用単元シート

図17 児童F児童用学習シート

[4年担任への聞き取りより]

児童が書いたものを前の日に読んでおいたが、授業では発言しない児童が多く、書いてあるのだから発言すればよいのと思うことがあった。それで、次は自信をもって発言することを勧めるコメントを入れた。それを教師用単元シートにメモしておいて授業で使えたので、つながりができてよかったと思う。

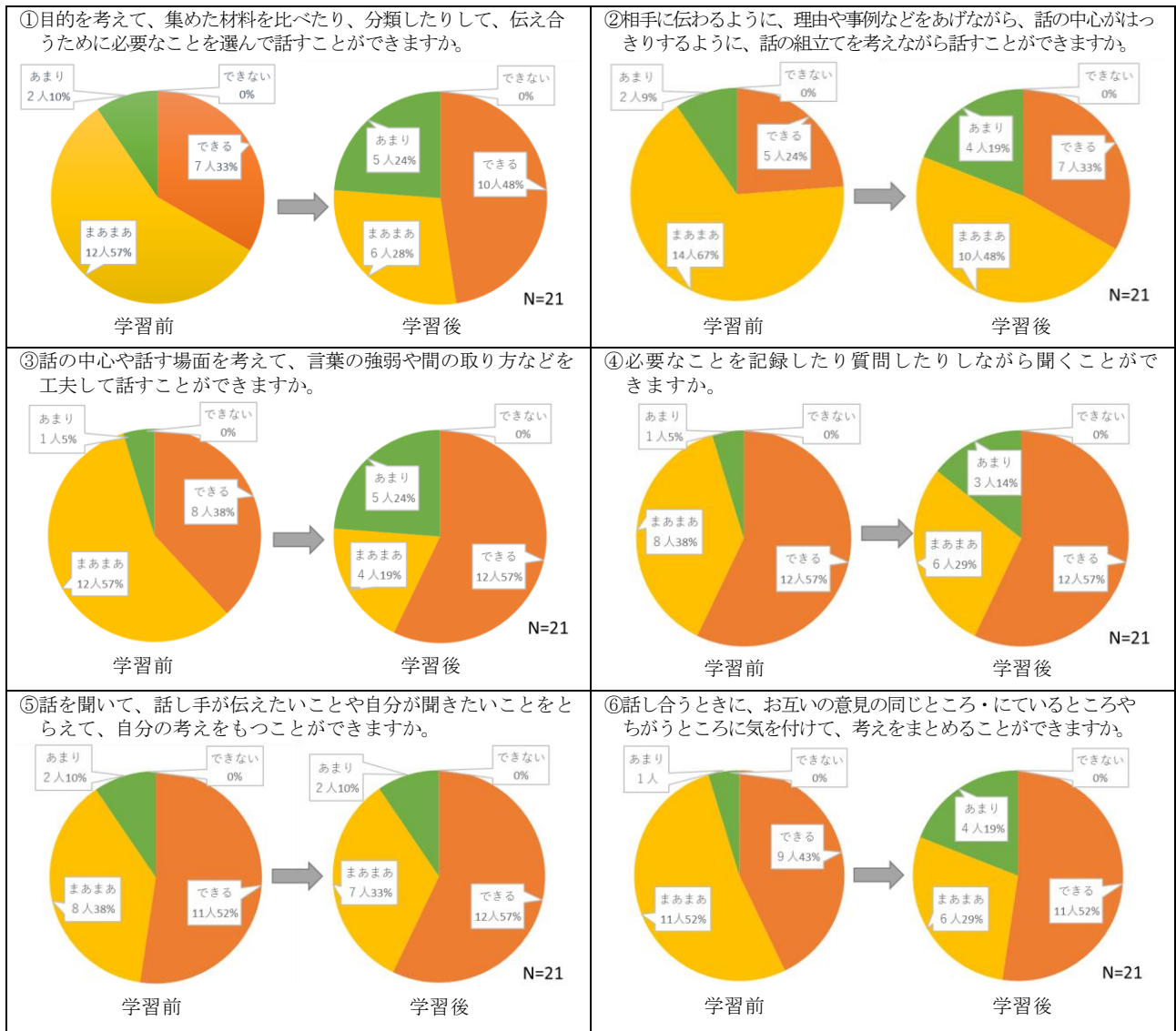


図18 アンケート結果（4年）

学習前に行ったアンケートでは、「話すこと・聞くこと」に対する自己評価の高い児童が多かった。しかし、学習後は、力が高まったと感じている児童がいる反面、どの項目も「あまり」と回答する児童が増える結果となった（図18）。これは、単元の学習を通して「話すこと・聞くこと」の身に付けるべき力への意識が高まり、自己評価を改めた児童がいたためと考えられる。学習前の自由記述では、話すとき・聞くとき・話し合うときに気を付けていることについて、ほぼ全員が一つは適切な回答を行った。学習後は、多くの児童が、記述が増えたりより詳しい内容を記述したりすることができた。学習前に的を射ないことを記述した児童も、「話すときに気を付けていること」として「自分の考えをまとめる」と記述することができた。

(3) 高学年の実践②

次ページ図19のように、第1時の見取りから学習活動に追記していた。児童Cは、第2時での主張・理由・根拠の記入が不十分な部分があった。そこで、担任は、自分の考えをうまく伝えられるよう助言を記入していた（次ページ図20）。話合いの中で、児童Cは自分の主張だけでなく理由も発言する様子が見られた。

2	進行計画と話し合いのポイントを確認し、グループの中で役割を決め、主張や理由、根拠が明確になるように自分の考えをまとめる。	自分の考えを、主張、理由、根拠に分けて、図などで整理している。(知①)	前時の図などによる語句と語句の表し方を示す。
	図19 (D) 図19 (D) 図19 (D) 図19 (D) 図19 (D) 図19 (D)	D: 図19 (D) E: 図19 (E) C: 図19 (C)	E: 図19 (E) C: 図19 (C)
	目的や思いに合わせて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容をよく考えて話すことができますか。	自分の考えを、主張、理由、根拠に分けて、図などで整理している。(知①)	教科書や板書で進行計画を確認するよう

図19 教師用単元シート

〔6年担任への聞き取りより〕

教師からのコメントを読んで、「話し合いのときには、これを意識した方がよいのではないか」と思った児童がいたと思う。教師用単元シートの書き込みを、児童用学習シートへの書き込みに生かしたところがある。また、児童の授業中の様子や児童用学習シートの記述を見て、今度はこうしようと思い学習活動に付け足したこともある。

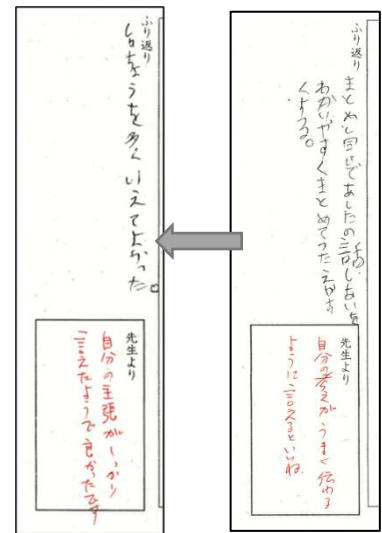


図20 児童C児童用学習シート

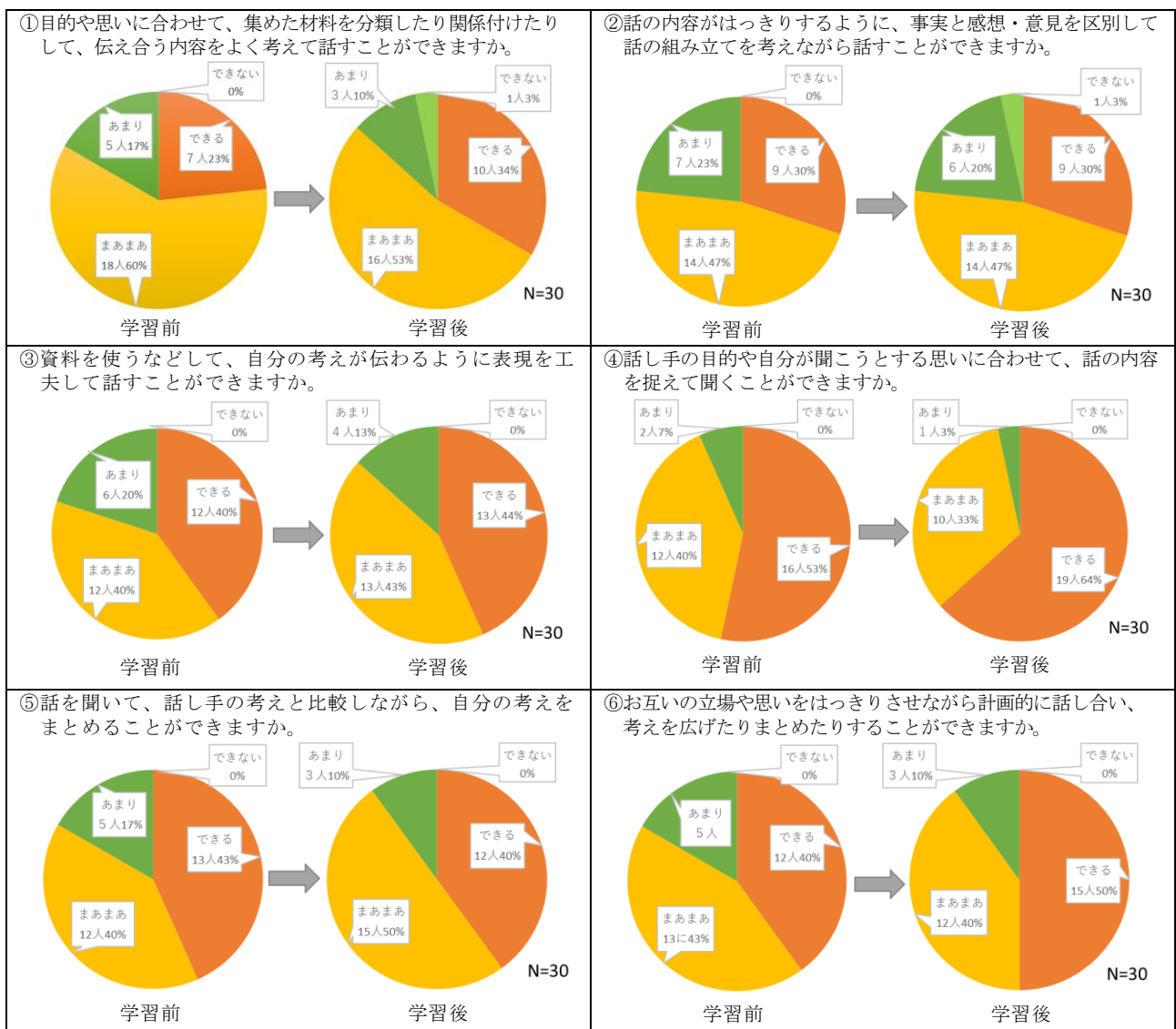


図21 アンケート結果（6年）

アンケートの結果（図21）から、学習前と比べ学習後は、6項目中5項目で「できる」「まあまあ」の割合が高くなり、「話すこと・聞くこと」について力が高まったと感じている児童がいることが分かる。学習前の自由記述では、これまでの学習の積み重ねを反映し、話すとき・聞くとき・話し合うときに気を付けていることについて、回答数に差はあるものの、多くの児童が適切な回答

を行った。学習後は、量的にも質的にも高い回答が増え、学習前、一つも回答できなかった児童も話すとき・聞くときについて、適切な内容を記述することができた。

以上のことから、教師用単元シートと児童用学習シートをつなげる指導の工夫は、授業改善につながり、「話すこと・聞くこと」の力を高めることができたと考えられる。

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

- 教師用単元シートの活用は、授業中に「努力を要する」状況（C）の児童への支援を行ったり評価や見取りを記録したりすることに役立った。
- 児童用学習シートは、児童が、「めあて」から「振り返り」まで見通したり、容易に記述したりすることに有効であり、教師からの助言を一人一人に伝えることに役立った。
- 授業中の見取りや児童用学習シートの記述を基に教師用単元シートの学習活動欄に追記したり教師用単元シートの記入を基に児童用学習シートに教師の助言を記入したり、二つのシートをつなげ、評価を指導に生かすことで、児童の「話すこと・聞くこと」の力を高められた。

2 課題

- 学習内容や児童の実態に合わせて、適切な評価や支援を行うことにつながる評価項目や支援内容等を精選し、よりよい教師用単元シートを作成することが必要である。
- 児童用学習シート作成に当たり、学習内容を考慮し提示する指示や発問を検討することで、児童の記述を評価に更に生かせるようにしていくことが必要である。
- 指導と評価の一体化を意識した授業改善のために、教師用単元シートと児童用学習シートのより有効なつながりのもたせ方を検討していく必要がある。

Ⅷ 提言

本研究では、国語科の中でも見取りや評価の比較的難しい「話すこと・聞くこと」領域において、教師用単元シートと児童用学習シートをつなげる指導の工夫をし評価を指導に生かすことで、児童の「話すこと・聞くこと」の力を高められることを明らかにした。本研究で活用した教師用単元シートや児童用学習シートを参考に、既存の年間指導計画や単元計画、ワークシートを生かして、児童の見取りに役立つシートを作成・活用し、授業での児童の学びを振り返り、指導に生かしたり、児童の取組の向上につながりして、授業改善を図っていくことが必要であると考えられる。

<参考文献>

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』
- ・文部科学省 国立教育政策研究所 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（令和2年3月） 東洋館出版社（2020）
- ・群馬県教育委員会 『はばたく群馬の指導プランⅡ』（令和元年8月）
- ・大坪 臨太郎 著 『小学校国語科の学びの力が高まる学習指導の工夫—学習評価シートの活用を通して—』 滋賀県総合教育センター研究成果情報（2017）
- ・神戸市教育委員会 小学校教育研究会国語部会 『評価から考える 授業改善の手引き～児童の資質・能力を育む国語の授業を創る～』（令和元年9月） 神戸市教育委員会事務局（2019）

<担当指導主事>

天田 直木 尾形 一美